

第7回 天草市学校規模適正化審議会会議録

| | |
|----------|---|
| 1 期 日 | 平成21年3月10日(火)午後2時2分～午後3時5分 |
| 2 会 場 | 天草市民センター第2会議室 |
| 3 出席の状況 | <p>(1)審議会委員 22人 石橋委員、土佐委員、龍石委員、原田委員、森委員、牧田委員、藤川委員、前田委員、本多委員、高辻委員、瀬川委員、松村委員、益崎委員、梅田委員、益田委員、永野委員、村端委員、杉山委員、金子委員、金澤委員、井上委員、角中委員</p> <p>(2)欠席者 尾田委員、山田委員、大久保委員、 3人</p> <p>(3)出席した事務局職員 7人 松下教育委員長、岡部教育長、嶺教育部長、坂本学校教育課長、武部同課課長補佐、山名同課教育企画係長、小川同課主任</p> |
| 4 傍聴者 | 3名(報道関係者＝熊日、読売、市広報公聴係) |
| 5 議事の内容 | <p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 前回会議の会議録の承認について</p> <p>4 議 事</p> <p>(1)答申(案)について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p> |
| 6 配布資料 | <p>(1)次第</p> <p>(2)答申</p> |
| 7 議事録作成者 | 学校教育課教育企画係 山名 直 |
| 8 記録の方法 | 発言者の要点記録、録音機 |

会議記録

[司会(学校教育課長)] 尾田委員、山田委員、大久保委員から欠席の届けが出されているが、過半数の出席があつていることを報告する。

[議長] 今日は最後の会議であり、教育委員会に答申をしたい。そのあと、自由な意見や要望等をザックバランに話を聞く時間をつくりたい。

前回の議事録の承認であるが。

[事務局] 郵送していたが、訂正の申し出はあつていない。

[議長] 議事の1で「答申について」とあるので、ただいまから答申したい。

(会長と教育委員長が進み出て)

「天草市教育委員会教育委員長 松下美奈子様

天草市学校規模適正化審議会は、平成20年6月30日に天草市教育委員会教育委員長から、「天草市の学校規模適正化について」の諮問を受け、子どもたちがより良い教育環境の中で効果的な教育が受けられるように、小・中学校や幼稚園の適正規模・適正配置の基本的な考え方及び実現のための具体的な方策について、7回の会議を開き活発な議論を重ねた結果、ここに本審議会の審議結果をまとめ答申するものである。

平成21年3月10日 天草市学校規模適正化審議会会長 石橋敏郎

よろしくお願ひ申し上げます。(会長より委員長に手渡し)

[教育委員長] ありがとうございます。1年間にわたり25名の委員には貴重な時間を割いてもらい、答申をまとめていただきありがとうございました。教育委員会は、この答申を礎として、今後の統廃合の対象となる地域住民の声を聞きながら、しかし、なによりも子どもの安全、安心な学校、子ども達が生き生きとして学びあえる学校づくりに軸足を置いて学校規模の適正化を進めてまいりたい。ありがとうございました。

[議長] これで答申が済んだところである。これからは懇談としたい。自由な意見や感想をどうぞ。

天草市の広報には、答申があつたことや学校統合の組合せも載るのか。

[事務局] 4月1日号には、答申をいただいたことを記載する。6月に素案をつくるがその際には、組合せも載せ、また、9月の成案の際にも載せる予定でいる。

明日から市のホームページには答申全文を掲載することとしている。

[委員] スクールバスで通学する場合には、雨よけの停留所をつくる必要がないかを以前にも申し上げた。倉岳では保護者が自ら設置しており、壁のないところもある。できればと統一的なものができればと思う。

[委員] 旧本渡市を中心に人口が流れており、学校統合により住居を変え高い家賃の住宅を借りることも考えられるという話もある。

[議長] そういう要望や意見があることを気にとめてほしいということであり、回答を求めているのではない。

- [委員] 現在の学区は住所を移さないと他の学校には移れないのか。学校規模が小さいところは、やりたいことをしたい場合にどうしたら移れるのか。
- [事務局] 部活等の場合には、指定校の変更の申請をすると(他校に)移ることができる。
- [事務局] 就学する学校については、弾力的な運用をやっている。部活動や学校になじめない、通学上の問題等の理由があれば、弾力的に対応している。そのかわり通学の責任は保護者となる。
- [議長] 今の議論は審議会では議論しなかったが、学校選択制のところもある。将来はそういう議論も出てくるだろう。
- [委員] スクールバスのことであるが、牛深地区では、小・中学校生が乗り合わせている。小学校と中学校の学校の時間が異なり、学校がバスの時間にあわせるような実態である。バスの運行を学校の時間に合わせる等の配慮ができないものか。
子どもを乗せた便が再び学校に帰ってくるまでに、時間がかかることもあり、学校の時間とうまくあわないこともある。
- [委員] 毎月バス委員会で調整してきたが、低学年、部活するもの、しないもの等帰り方もいろいろあり、帰りの便は3回となっているので、待ち時間が長いときもある。
バスの時間にあわせるのではなく、学校の時間にあわせバスを運行することが大事と思う。
- [議長] 具体的な運行スケジュールのことであり、バスと運転手が何台分もあるわけではない。うまくいこう相談するしかない。
- [事務局] 牛深の場合は小・中学校生が乗っており帰りの便は課題もある。分室とも相談してさらに時間をあわせる等検討したい。
- [委員] 校区が広がったので、家庭訪問してほしいと(校長として教員に)なかなか言いづらい面もある。(家庭まで)1時間かかるところもある。
- [議長] そういう課題もあることを知ってほしいということだ。
- [委員] 第1子が小さい親等は、学校規模適正化の動きを知らない、関心がない人もいる。保育所や子育て支援センター等でも掲示板で答申書がみられるようなことも考えてほしい。知ってもらうことが大事。
- [事務局] 素案ができたなら、公的な機関でみられるような体制をとりたい。
- [委員] 閉校後地の利用については、地域の意見をよく聞くように配慮してほしい。
- [議長] 跡地の利用については、行政だけでは解決できない、地域の理解と協力が必要である。
- [委員] 学校は地域の文化の拠点であるとしてもらった。まちづくり団体と協力して跡地利用を図っていくと説明すれば地域も安心するのではと思う。
- [事務局] 体育館や運動場は、現在でも地域に開放しており、閉校しても社会体育施設として利用できるようにしている。校舎については、耐震性や広すぎる等からなかなかうまく利用できない面もある。

- [事務局] 先週の日曜日に赤崎小学校の閉校式があったが、跡地利用については地域の要望を聞きながら進めたい。
- [委員] 高齢者にとっては、母校はその学校だけである。それが草ぼうぼう等となるならば許されないこと。心の支えである。それがなくなることの重要性を理解しながら進める必要がある。
- [事務局] 昨年の倉岳、今年の赤崎の閉校式を経験。閉校の痛みを乗り越えることで、子どもの夢が開けるといふ思いで心が1つになっていた。こどものふるさととは1つ。心を1つにして、地域の大人が頑張らないといけない。
- [委員] 放課後子どもプランについて話したが、これを活用するのも方法である。放課後のスクールバスの待ち時間を活用し保育し、高学年は宿題や本を読む等している。週末には閉校し学校を訪ねる等を行えば、高齢者と交流しコミュニティも衰退しないし子どもも地域に帰ってくると思う。
- 市全域でこの事業を活用することが大事。このために、地域の実施団体が必要であるので、行政の支援や連携などが必要である。
- [事務局] 20年度でこの事業については6ヶ所予定であったが、受け皿の対応から3ヶ所であった。
- [委員] 現在新本渡中の開校準備をしているが、(学校統合すると)学校名や校章等も新たに作る必要があるが、統合により子どもにとって何ができるのかに重きをおいて、早めに検討することが必要と思う。また、関係の学校の保護者で懇親を深めており、横のつながりをつくっている。そのような組織を早めにやるとうまくいくのではと思う。
- [委員] 新本渡中があまりにもマンモス校であることが懸念することであり、郡部との学校間の格差を感じる。教職員の配置の配慮、生徒の交流事業等はできないものか。
- [事務局] 素案をつくって十分説明し理解をいただきながら進めたい。統合の目的等についても理解を得ながら進めたい。
- [委員] 地域住民に説明するのはいつ頃になるのか。
- [事務局] 5～6月に素案をつくり、パブリックコメントや説明会を行い、秋にかけ基本計画としたい。
- [委員] 委員としては今日で終わりであるが、地域に説明すると行政への厳しい質問が出ると思う。中には子どものことを考えない人の質問もあるだろう。委員としては、子どものための適正化であること話してやる等、説明会に出席して助け船ではないがフォローしてやることも必要と思う。
- [事務局] 倉岳や赤崎で統合を経験しているが、共に地域から統合の要望があったとはいえ、行政が地域に説明した際にはいろいろな意見があった。総論では賛成であっても各論はいろいろある。子どものことを考えてほしいということで理解を得てきた。説明会の際には、(委員として)助言や後押しをいただければありがたい。
- [議長] 答申については委員の個人の責任はないが、地域での説明会では(審議会の)最

初の会議のようになる。そのようなことを説明会で話してもらいたい。

[委員] 課題に対して教委が対応するものと地域で解決するものがある。地域で問題を解決できない場合はどうするのかは大きな問題である。

[議長] 前期と後期に分けているが、地域の実情もある。

[委員] 倉岳が統合したが、その後の保護者の意見などはどうであったか。

[事務局] 統合した後は、苦情などはほとんどない。

[委員] 教育委員会で保護者にアンケートをとっている。その結果が出ると思う。期待と不安がある。

[事務局] 統合前の倉岳3小や統合後の学校も訪問した。教育委員就任当初は、統合に疑問もあったが、子どもがこんにかわるのだと感じた。変わった姿をみてもらい納得してもらえないのかも。統合してよかったという姿をみてほしいと思う。

[委員] 統合した学校としては、地域と遠くなったと感じている。老人会とのつながり、伝承文化の継承等に取り組んでいきたい。

[議長] 統合したことだけで教育が良くなるわけではない。宇土市が教育振興計画を策定しているので、参考にして学校の教育内容の在り方を検討してほしい。

[委員] 御所浦北からお願いがある。小学校・中学校それぞれ1校あるが統合できない。それは島だから船で通わなければならない。架橋の建設ができれば統合もしやすい、1日も早くできるよう希望する。

[委員] 5年前に統合を経験したが、統合すれば活気が出るとは限らないということを知ってほしい。そこには、相当の努力やエネルギーが払われ教員の努力があつてこそである。(その努力は)子どもの姿でわかってもらえない。ものすごいエネルギーや気を使いながら統合ができていくことを知っておいてほしい。

スクールバスのことであるが、歩かなければ体力も落ちる、体力が萎えると気力も萎える、そうすれば学習力も落ちる。このようなことも知っておいてほしい。

[議長] 学校の名前と校舎はなくなるが、誇りと思い出は永遠に心に生き続け、卒業生はその場所で頑張ってくればその学校は生き続けるということを閉校記念講演会で話している。7回の会議で、皆さんの天草への愛情と期待の大きさを感じた。

[事務局] お礼を申し上げたい。今日は答申をいただいたが、子どもの教育が第一という答申であると思っている。基本的には実現できるよう尊重して取り組んでまいりたい。

少子化の中児童生徒数も減少し、半数が複式学級という環境の中で、学校の教育環境を改善することは必要である。

5月ごろに委員会としての素案をつくり、パブリックコメントを行いながら9月には成案を策定したい、これには時期も書きたい。ありがとうございました。

[議長] みなさま永い間ご苦勞様でした。